

3. 新製品ディスポーザブルクリップ装置の使用経験とその有用性について

大腸肛門病センター高野病院 内視鏡センター

内視鏡技師 ○西坂 好昭、松平美貴子

医師 野崎 良一、中村 寧、山田 一隆

【はじめに】

クリップ装置とは本来ポリープ切除後の予防的止血や、緊急時における止血術、マーキング法に用いられる装置である。クリップ装置には、把持力やコントロールのしやすさ、クリップの回転性、操作の簡便性などが求められる。今回新しくディスポーザブルのクリップ装置が発売された。そこで従来から使用しているクリップ装置と比較した結果、優れていたため、その有用性について報告する。

【新製品ディスポーザブルクリップ装置の紹介】

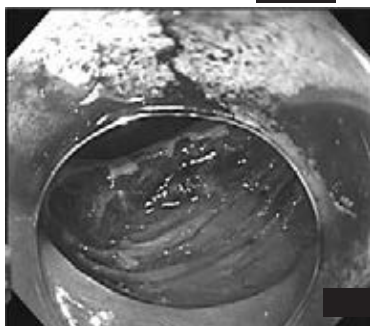
クリップ装置は、Tomel Clip (Century Medical)、SAIKEI (株式会社カネカ) 2社より併売している。クリップは先端角度90°と135°の二種類があり、アプライヤの有効長は1650mmと2300mmのラインナップがある。またシース外径は2.3mmと細径である。なお適応鉗子口径は2.8mm以上となっている。ハンドル部は他社の製品と大きな変化はなく、ハンドルとスライダーで構成されている。クリップもカートリッジに収納されており、クリップを装填する際も同様の操作である。製品の特徴として、掴み直しが可能、シースが細径のため吸引に支障をきたさない、回転性能に優れる、不意に粘膜壁にクリップが接触しても腸管内で脱落しない、アプライヤが一患者ごとのディスポ製品のため感染管理上有利、クリップのブレードが湾曲しているため、粘膜面を的確に把持することが可能、操作が簡便などがあげられる。

【方法】

当院で従来から使用しているクリップ装置（従来型）と新製品ディスポーザブルクリップ装置と比較した。対象の期間は平成30年9月～10月、対象症例数20症例。比較内容として、①クリップの装填性、②鉗子口内への挿入性、③クリップの脱落の有無、④負荷がかかった場合の回転性能、⑤把持力（図1）、⑥送水及び吸引性能への影響、について検討をおこなった。

(図1)

症 例



30mm大ESD症例
筋層を的確に包縮

吸引性能に優れる
ため吸引をかけ
ながら包縮が可能

【結果】

当院で全大腸内視鏡検査下にポリープ切除を行った症例に対し使用し比較した。新製品のクリップは従来型よりも掴み直しができることで、的確なクリッピングを行うことができた。また、シースが細径で、金属シースの外周が樹脂製のシースで覆ってあるため、シースの操作感並びに吸引性能に優れている。そしてクリップが脱落しないことでクリップが無駄にならない。把持力と回転性にも優れている。さらに、カネカ細径はディスプレイ製品のため感染管理上安全である。従来型と比較した結果、性能面、操作性において劣る点は見られず、既存の製品より性能が優れていた。

以上の使用経験を、実際の動画を交えて提示する。

【まとめ】

今回カネカ細径クリップ用アプライヤを使用し従来型と比較した結果、操作性、安全性に優れていた。したがって今後従来型に代わるクリップ装置として大変有用であると思われる。

【連絡先：〒862-0971 熊本市中央区大江3丁目2番55号 TEL096-320-6500 Fax096-320-6555】